

延岡市長 首藤 正治 様

平成23年度

政策提言書

1. 高速道路開通を見据えた

観光施策（産業）の充実

2. 農林水産業（第1次産業）の振興

平成24年4月11日

延岡市議会

議長 佐藤 勉

【提言１】 高速道路開通を見据えた

観光施策（産業）の充実について

〈提言の内容〉

本市には、海・山・川の豊かな自然と食材に加え、歴史、文化、そして、伝統的な祭りやスポーツを活用したイベントなどの観光資源も数多くあり、「観光都市 延岡」として非常に高いポテンシャルを秘めているといえる。

さらに、東九州自動車道が、平成 25 年度には本市から宮崎市までが開通する予定となり、本市周辺を取り巻く高速交通体系の整備も確実に進展している。高速道路の開通は物流や、観光客等の人の流れを格段に拡大・加速させ、観光に限らず、産業、医療、教育等様々な分野において本市の活性化に大きな効果をもたらすことが期待される。

サービスエリアとなる道の駅「北川はゆま」は、東九州自動車道の全線開通後は宮崎県の北の玄関口でもあり、駐車場等の施設整備に加え、地場産品売り場の拡充を図ることも急務と考える。また、北浦ＩＣ－須美江ＩＣ間に位置する浜木綿村や、須美江家族旅行村の施設整備の促進など、観光客を市内に取り込む観光施策の展開が、今後、本市観光の活性化にとっても肝要となる。

また、ＩＣからの出入り口付近を中心とする道路沿いに大型案内看板等を設置するなど、宣伝方法に力点を置いた情報発信を積極的行なうことも大変重要であり、高速道路開通の好機を確実に活かすため、継続可能で地域振興に貢献する開通記念イベントの実施も望まれる。

以上のような状況を踏まえ、当局におかれては、東九州自動車道開通の効果を最大限活かす為に、次の対策を講じていただくよう強く提言する。

記

1. 海・山・川など多彩な自然を活かした体験型観光のためのプログラム充実や、歴史・神話・文化・スポーツを活用した観光客誘致の強化を図ること。
2. 開通記念イベントは、本市の持つポテンシャルを活かした継続可能な記念イベントとするため、広く市民の意見を取り入れた実施計画を策定するとともに、国・県はもとより、大分県とも連携を図り、総合的なイベントとすること。
3. 「道の駅『北川はゆま』」、「浜木綿村」、「よっちみろ屋」は、地場産業振興にも繋がる重要な施設であることから、レストラン部門や物産品売り場、駐車場の拡充を行なうとともに、ドライバーにわかりやすい大型案内看板等の設置を行うこと。

【提言 2】 農林水産業（第 1 次産業）の振興について

〈提言の内容〉

我が国の農林水産業においては、従来から直面する様々な課題に加え、TPP交渉への参加や、東日本大震災による原発事故の影響等もあり、安定的な食料の供給や、「食」の安全・安心が一層先行き不透明な状況となっている。こうした大変不安定な状況の下、本市の農林水産業への影響も懸念されるところである。

本市でも、過疎・高齢化に伴う後継者不足、地域力の低下に加え、口蹄疫や鳥インフルエンザ等の影響、有害鳥獣による農林作物被害の増加等と相まって、農林水産業の停滞が続いているが、一方で、異業種から農林水産業へ参入する動きもあり、雇用拡大の兆しも見られる。

農林水産業の振興は地域の絆を深め、コミュニティーの活性化にも繋がるものであり、現在直面する困難な状況を打開していくためには、農林水産業従事者の就業意欲向上のための生産基盤の充実や、効果的な有害鳥獣対策、家畜の防疫対策の強化を図るとともに、消費者のニーズに合った農産物の生産拡大、6次産業化の推進に努める必要がある。

当局におかれては、本市の農林水産業従事者が将来に希望をもち、意欲を持って従事できるよう、次の対策を講じていただくよう強く提言する。

記

1. 本市における有害鳥獣の、農林産物への被害総額を解明するとともに、有害鳥獣の生息数を把握した上で、鳥獣駆除体制の見直しと、住民と野生鳥獣が共存できる環境整備を図ること。また、鹿・猪肉の消費・販売の拡大、加工施設の整備など、様々な視点から研究に取り組むこと。
2. 口蹄疫・鳥インフルエンザの防疫マニュアルを活かし、防疫対策の強化徹底を図ること。
3. 6次産業化の推進にあたっては、異業種との連携を推進する組織を設置するとともに、新商品（ブランド）開発、販路開拓、加工のための技術研修等の情報提供など、生産者の所得向上に向けて、国・県の制度の活用を含め、行政としての支援体制の充実強化を図ること。